

放射線科

専門領域：放射線治療、画像診断学、核医学、
IVR (interventional Radiology)

放射線科専門医への道

Q & A方式で、放射線科専門医への道を説明致します。

Q1：放射線科専門医になるにはどうしたらいいの？

初期臨床研修終了後、日本医学放射線学会に入会したうえで、日本医学放射線学会が認定した修練機関での研修が必要です。このため、専門医資格を得るための1次試験は卒後5年目、2次試験は卒後7年目となります。1次試験は、画像工学・放射線生物学・法律・放射線治療学・放射線診断学などの幅広い基本的知識が問われます。2次試験は、放射線治療専門医の試験と診断・核医学専門医の試験とに分かれ、希望する専門医資格のどちらかを受験します。

現在、学内には放射線治療専門医取得者が2名、診断・核医学専門医取得者が9名おります。

旭川医科大学放射線科の研修は、卒後3年目は主として旭川医科大学附属病院に勤務し、1年間をかけて放射線治療、核医学（各3ヶ月）、診断・IVR（6ヶ月）の3部門を回ってもらいます。その後、放射線治療を専攻するか、診断・核医学を専攻するかを決めてもらい、それぞれの専攻分野について大学や協力病院などで知識を深めてもらいます。希望者は、よりレベルの高い国内または国外施設への留学も可能です。

Q2：その他にどんな専門医が取得できるの？

放射線科専門医以外の放射線科関連専門医として、現在学内には、IVR指導医取得者が3名、日本核医学会専門医取得者が4名います。PET核医学認定医制度もスタートしました。その他、超音波専門医、検診マンモグラフィ読影認定医および、放射線腫瘍学会認定医などが取得可能です。さらに、専門医資格ではありませんが、放射線の安全管理で重要な第1種放射線取り扱い主任者の資格取得者も8名おります。

後期研修プログラム概要

1. 放射線診療各部門における1年間の研修

後期研修1年目は、1年間をかけて放射線治療、核医学（各3ヶ月）、診断・IVR（6ヶ月）の3部門を回ってもらいます。その後、以下に述べる放射線治療を専攻するか、診断・核医学を専攻するかを決めてもらいます。

2. 診断・核医学専門医養成コース

(1) 研修目標・計画

放射線診断は、診療の領域別に大きく分けると、神経・頸部・胸部・腹部・骨盤部・骨軟部・小児・乳腺・心臓に分けられます。また、診断modality別には、単純X線検査、CT検査、MRI検査、超音波検査、血管造影検査、核医学検査に分かれます。2次試験受験までの約4年間の研修期間を通して、各種疾患についての知識を深め、各種画像診断の適応・撮影方法および画像所見について勉強するとともに、バセドウ病や甲状腺癌に対するヨード治療や画像誘導下に行う各種治療（IVR）について習得します。

学会発表能力および論文作成能力の習得に関しては、卒後3年目より北海道地方会・北日本地方会で発表トレーニングを開始し、卒後4年目より各種全国研究会・全国学会、および国際学会等で発表をしてもらいます。また、発表した内容を論文として作成・投稿してもらいます。

(2) その他関連専門医の取得

① 核医学専門医

5年以上継続して日本核医学会正会員で、会費を完納していること。専門医教育病院における核医学研修歴が5年以上あること。

② IVR指導医

入会後、継続して5年以上日本IVR学会会員であること。本学会の認めるIVRに関連する学会の専門医に相当する資格を有すること。本学会が認定した修練施設において、2年以上のIVRの修練を行っていること。

③ 超音波専門医

申請時に於いて、5年以上継続して日本超音波医学会正会員であること。本会の指定する超音波専門医研修施設に於いて、超音波指導医の指導のもとに、「超音波専門医研修カリキュラム」に準じて5年間継続して超音波医学研修を行っていること。業績および臨床研修の実績が、以下に定める基準に達していること。

A：業績としては、筆頭者として5篇以上の超音波医学に関する学会発表、あるいは学術論文を有すること。

B：臨床研修の実績として、指定超音波専門医研修施設に於いて、500例以上の超音波診療経験を有すること。

3. 放射線治療専門医養成コース

(1) 研修目標・計画

放射線治療の対象は悪性疾患のみではなく、一部の良性疾患も含まれ、広範なものとなっています。しかし放射線治療のみの知識では、これらの疾患を治療することはできません。そのためには病理学、画像診断、外科的治療、化学療法などに関する知識も必要です。これらを総合的に判断できる放射線腫瘍医を目指します。

脳腫瘍、乳癌、食道癌、肺癌、悪性リンパ腫、頭頸部腫瘍、子宮頸癌、前立腺癌などの主要

疾患において、治療方針を決定し、治療計画を行うことができるようになるよう研修をすすめていく予定です。また症状をとるために行う姑息的放射線治療についても理解を深めてもらいたいと考えています。

(2) その他関連専門医の取得

放射線腫瘍学会認定医は、7年以上の会員歴で所定の条件をみたした場合（放射線治療専門医取得者は5年）、取得可能となります。

大学院コース

現在、大学院に進学して博士号の学位取得を目指す希望者に対しては、当科では3つのコースを開講しています。大学院進学希望者は、下記に述べる3コースのうち、いずれかのコースを選択の上、専門医を取得するための研修（放射線治療医養成コース、または診断・核医学専門医養成コース）と並行しながら学位の取得を目指します。

1. 放射線病態学特論

本コースでは、放射線が人体に及ぼす影響、すなわち機能的および形態的变化を検討していく。特に、放射線診断および治療に伴う病態変化に着目して研究を進める。

2. 臨床腫瘍学特論

本コースでは、腫瘍を対象とした画像診断および治療を検討していく。特に放射線診断および治療に伴う腫瘍の病態生理的变化に着目して研究を進める。

3. 病態検査学特論

本コースでは、臓器の病態生理学的変化が画像としてどのように捉えられるかを検討していく。特にCR, CT, MRI, RI画像に着目して研究を進める。

連絡先／担当者 放射線科医局長：山田有則

mail address: tyamada@asahikawa-med.ac.jp

診療科ホームページ

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/dept/mc/radiol/asahi.htm>